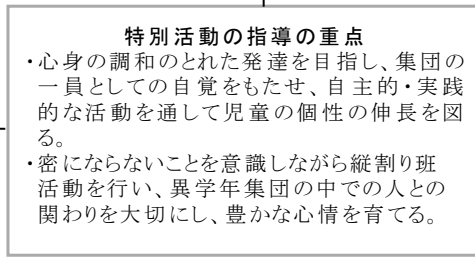
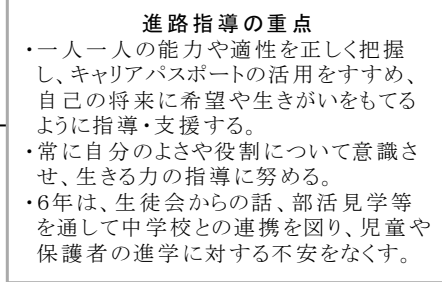
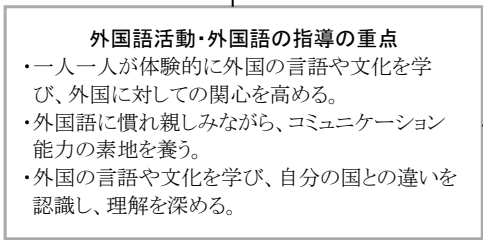
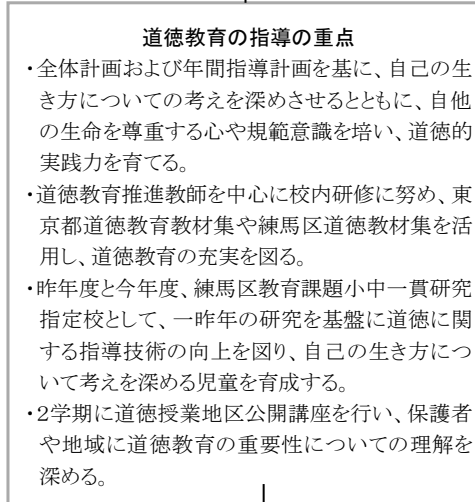
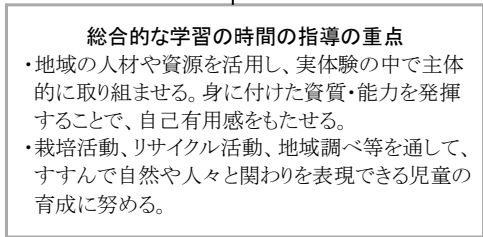
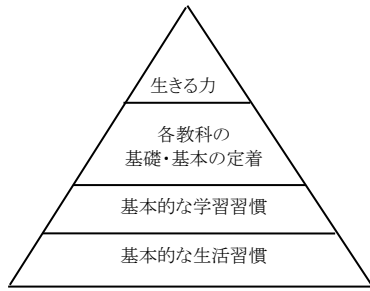
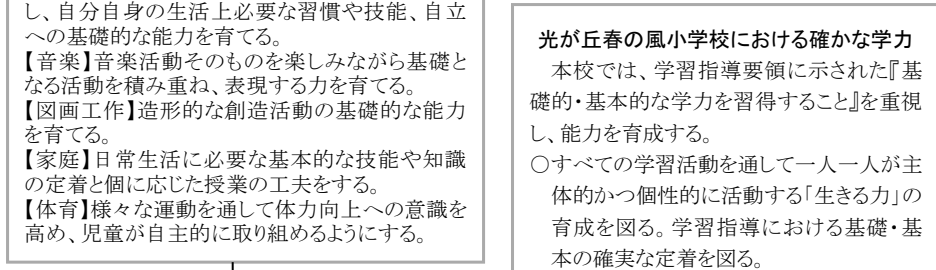
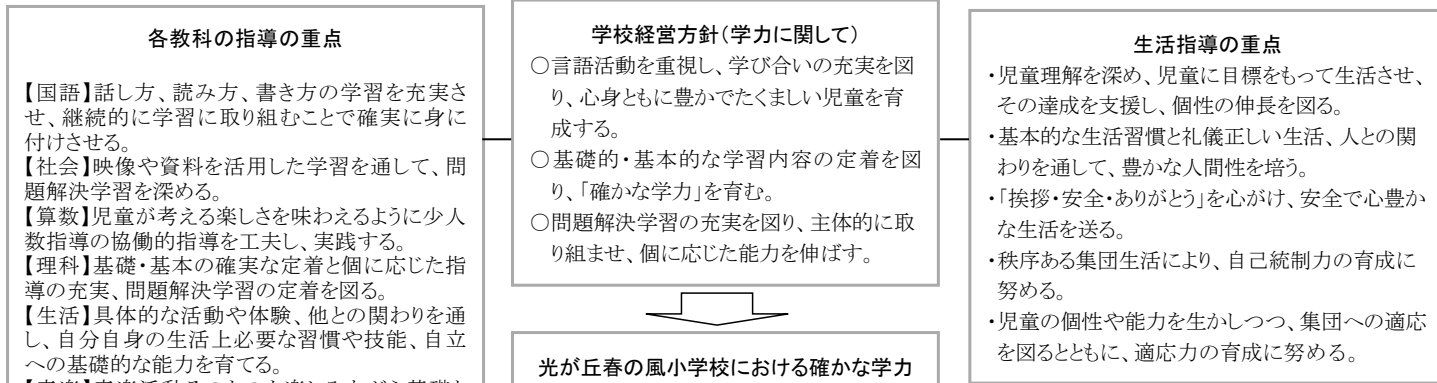
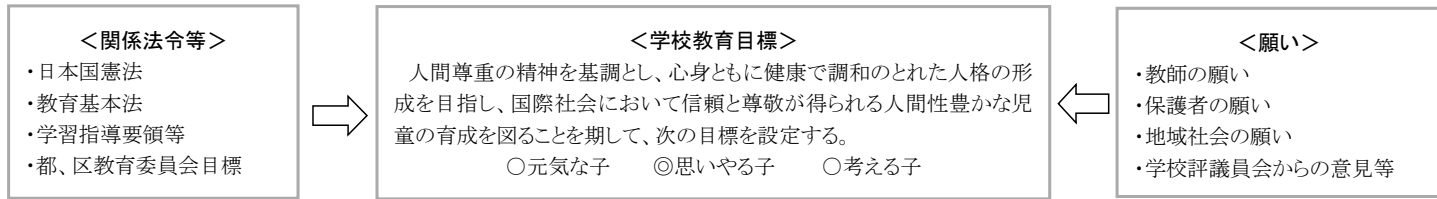


令和4年度 学力向上を図るための全体計画

小30 練馬区立光が丘春の風小学校



本校の授業改善に向けた視点

| 指導内容・指導方法の工夫 | 教育課程編成上の工夫・教育環境の整備 | 校内における研究や研修の工夫・小中一貫教育の推進 | 評価活動の工夫 | 家庭や地域社会との連携の工夫 |
|--|--|---|--|---|
| ・算数科では、少人数指導を実施し、学習形態や指導方法を工夫する。東京ベシック・ドリルを活用し、習熟度に応じた指導や問題解決学習を推進する。 ・児童一人一人の学習状況を把握し、指導方法や進度に反映させる。 ・発展的な学習・補充的な学習をする取り組み(地域未来塾)を2、3学期に設定し、学力の定着を図る。 | ・各学年の学習形態を、児童の発達段階や実態に応じたものにしていく。 ・学習指導要領の趣旨や理念について理解し、指導計画や指導方法の工夫を図る。 ・全国・都学力調査の結果を分析し、高めるべき力を反復学習で重点的に指導する。 ・タブレットやICT機器を活用した授業や課題を積極的に取り入れ、学力の向上や定着を図る。 | ・2年間の小中一貫教育で積み重ねてきた特別活動、道徳、特別支援について、指導案や指導方法を検討することで授業実践に生かす。 ・中学校と共に作成した課題改善カリキュラムを小中一貫教育研究の成果や児童の実態に合わせて修正する。 ・主幹・主任教諭によるOJT研修を年間9回設定し、指導方法の改善に生かす。 ・研修の時間を存分に生かし、個々の研鑽を深める。 | ・年間の授業計画の中で、それぞれの単元における評価の計画を立てる。 ・学年間で単元ごとの指導内容や計画を話し合い、資質・能力面における評価の共通理解を図る。 ・児童一人一人に目を向け、個々の評価を踏まえた指導、支援活動を行っていく。 | ・分散参観による学校公開を年7回行い、道徳授業地区公開講座の代わりに道徳授業の公開を全クラスで実施する。 ・学校行事の保護者感想、学校評価等、外部評価を分析し、授業改善に活用する。 ・高齢者や障害がある方々、保護者等、地域の人々と連携を深めた学校づくりを推進していく。 ・学校便りやホームページで、本校の教育活動を積極的に家庭や地域に知らせていく。 |